報道関係者各位

2026 年 11 月 12 日
株式会社 JDSC

JDSC、プロジェクトの“先読み”と“実行”を AI と人で担う「Co-loop Engine シリーズ」を発表

～プロジェクト推進や AI 駆動開発を安全かつスピーディーにやり遂げるための新しいサービス～

株式会社 JDSC（本社：東京都文京区、代表取締役：加藤 エルテス 聡志 / 佐藤 飛鳥、以下 JDSC ）は、プロジェクトの“先読み”と“実行”を AI と人で担い、最後まで回しきる為のサービス「Co-loop Engine（コループエンジン）シリーズ」を発表します。第一弾として、プロジェクト内のやり取りや履歴から火種を先読みして見つける「Co-loop Engine “Hayagane”（ハヤガネ）」と、開発の工程を AI と人のバトンリレーで進める「Co-loop Engine “Aibaton”（アイバトン）」を同時に公開します。

Co-loop Engine
AIと人で、プロジェクトを回しきる。

■プロジェクトにありがちな“遅延”には、新しい“回し方”が必要

プロジェクトの多くは、遅延しがちです。一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）の調査※1 では、工数 500 人月以上のプロジェクトの 43.7%が遅延しており、工期が予定どおりだった割合は、2016 年度の 29.5%から 2024 年度には 11.0%まで下がっています。

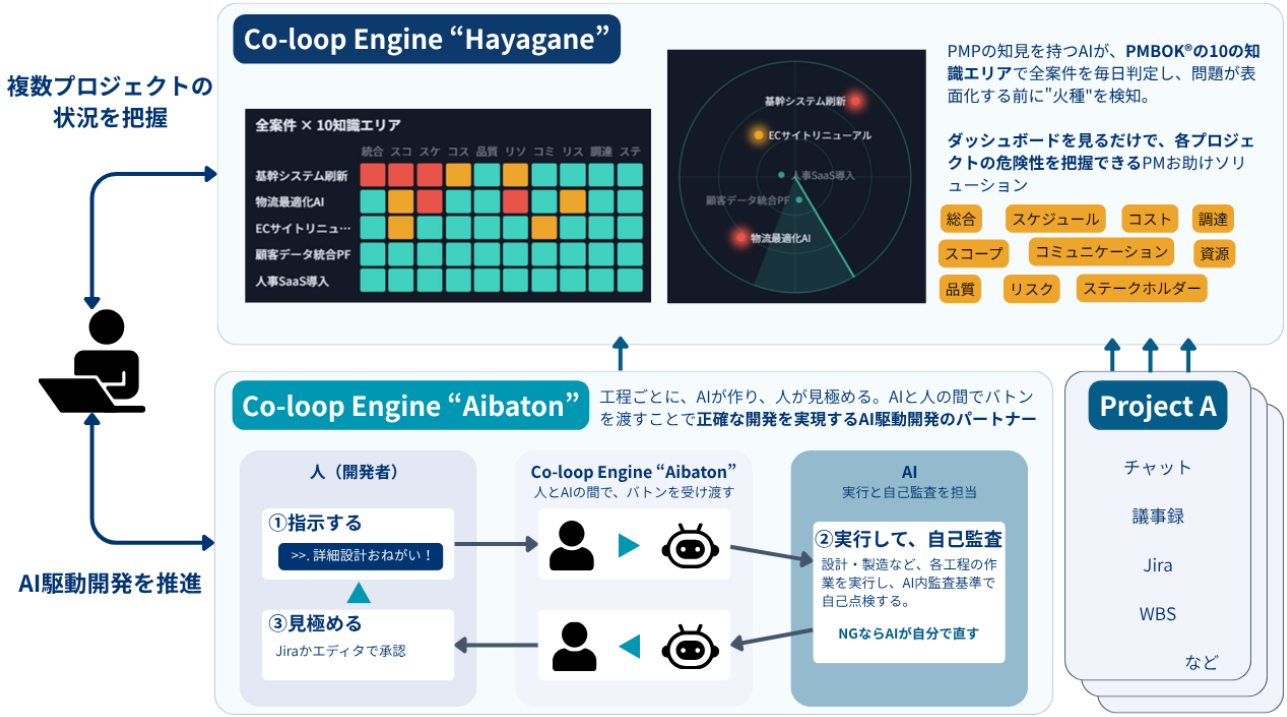
これまでのプロジェクトは、人を投入し、全体を見渡せる熟練者が判断することで、かろうじて回ってきました。昨今、そのプロジェクトに AI が加わるケースが増えています。特に開発現場においては、AI エージェントが設計書やコードを書き、プロジェクト管理でも AI が状況を集め、進み具合を判断するようになりました。Stack Overflow の調査※2 では、開発者の 84%が AI ツールを使っている、または使う予定と回答しています。

しかし、AI を入れただけでは、プロジェクトの遅延は回避できていないのが実情です。AI が成果物を速く、大量に生み出すほど、人はそれをすべて確認するか、確認せずに後工程へ送るかの二択に追い込まれます。プロジェクトの判断まで AI に任せれば、何が、なぜ判断されたのかが見えなくなり、人は結果に責任を持てなくなります。そこで、日頃から AI 駆動開発や AI を活用したプロジェクト管理を行っている JDSC が、現場の課題を解決するために提供するのが Co-loop Engine シリーズです。

■Co-loop Engine ― AI と人の責任の境目を設計し、プロジェクトを回す

Co-loop Engine は、複数プロジェクトを管理する PM（Project Manager）をサポートする“Hayagane“と、AI 駆動開発を推進する “Aibaton”で構成され、別々で導入することも可能です。
プロジェクトの“先読み”を担う Hayagane は、チャットや議事録などのプロジェクト内のやり取りや履歴から火種を先に見つけ、PM の判断を支えます。PM は、その状況を見て、確認し、的確な判断や指示を行います。

一方、開発の“実行”を担う“Aibaton”は、工程ごとに AI が成果を作り、人が成果物を判断し、人が工程移行を承認したものだけを次に進めます。Co-loop Engine は、人が介在すべきポイントを設計。AI が回せるところは AI が実行し、人は責任分界点において、根拠を持って判断します。AI の自律に頼り切る事なく、人が主要なポイントで介在することで、安全にプロジェクトを運営できます。



図：Co-loop Engine の全体像

■Co-loop Engine “Hayagane” ― やり取りと履歴から、プロジェクトの火種を先に見つける

Hayagane は、チケット、議事録、チャットなど、プロジェクト内のやり取りと履歴を AI が毎日読み込み可視化します。一つの兆候だけで判断せず、複数の情報を突き合わせたうえで、プロジェクトマネジメントの国際標準 PMBOK®※3 の 10 の知識エリアごとに全案件を判定し、本当に火種になりそうなものだけを、判断の理由と次の一手の候補とともに PM に通知します。最終的に次の一手を決めるのは、AI と相談した PM が行います。

■Co-loop Engine “Aibaton” ― 開発の工程を、AI と人のバトンリレーに変える

AI はすでに、設計書もコードも書けますが、それでも開発スピードが速くなっていないのが事実です。それは、AI が作ったものを全て人が見直す、もしくは、見直さずに後工程で手戻りを起こしているからです。

Aibaton は、工程ごとに AI と人の責任分界点を引きます。AI は作業を終えるだけでなく、工程ごとの基準で自らを監査し、満たさなければ自ら直してから人にバトンを返します。人は、承認と判断を担います。承認されたものだけが次の工程へ進むため、誤りはそれが生じた工程で止まり、後ろに進むことはありません。JDSC の社内のプロダクト開発に適用した検証では、従来と同等の品質のまま、開発工数を 75%削減しました※4。

Co-loop Engine は、プロジェクトを回す力を、人数と一部の熟練者の経験から切り離し、AI と人が責任を分け合う仕組みに変えます。同じ考え方は、ソフトウェア開発にとどまらず、建設、研究開発、行政の DX など、多くの主体と工程をまたいで一つの成果を出さなければならないあらゆるプロジェクトへ広がっていきます。

JDSC はこれまで、部門と企業の“間”で止まる設計の合意形成を組み替える Co-design Engine、倉庫・輸配送・本社管理の“間”をつなぐ Logi-one Engine を開発してきました。Co-loop Engine は、あらゆる産業の変革を実行する単位である「プロジェクト」そのものを組み替える、JDSC の AI Engine シリーズの新たな一角となります。

■開発担当者コメント

株式会社 JDSC インダストリーAI 事業部　Co-loop Engine プロダクトマネージャー　富田 優作

「AI によって、私たちの仕事は手を動かすことから、判断することへと変わりました。一方で、AI が速く大量に作るほど、人が『いつ、何を判断すべきか』を設計することが新たな課題になっています。Co-loop Engine は、その判断のポイントをあらかじめ組み込んだ仕組みです。Aibaton では工程の区切りで、Hayagane では火種が見えた時点で、人にバトンが渡ります。AI を使いこなすこの新しい働き方を広げることで、AI 駆動開発をアップグレードできると確信しています。」

■今後の展開

Co-loop Engine “Hayagane”および Co-loop Engine “Aibaton”は、現在 JDSC 社内のプロジェクトで運用しており、2027 年 1 月を目処に外部企業への提供を開始する予定です。サービス提供の際は、Co-loop Engine で解決しきれなかったプロジェクトを、JDSC の FDE（ Forward Deployed Engineer ）に引き継げる機能も予定しています。

■株式会社 JDSC について　https://jdsc.ai/

JDSC は、AI エージェントとデータサイエンスを核に、日本の基幹産業の変革を進めるテクノロジーカンパニーです。製造・物流・インフラ・公共などの現場に深く入り込み、DX や AX による意思決定の高度化から、フィジカル AI による現実世界の最適化・自律化までを実現。社会課題を解決する新たな産業スタンダードを創り、日本のアップグレードに貢献します。

——

※1 出典：一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会「企業 IT 動向調査報告書 2025」
※2 出典：Stack Overflow「2025 Developer Survey」
※3 PMBOK®（Project Management Body of Knowledge）：米国の PMI（Project Management Institute）が発行する、プロジェクトマネジメントの知識体系ガイドです。第 6 版では、プロジェクト管理に必要な知識を 10 の「知識エリア」（統合、スコープ、スケジュール、コスト、品質、資源、コミュニケーション、リスク、調達、ステークホルダー）に分けています。
※4 JDSC 社内のプロダクト開発プロジェクトにおける 2 週間の検証結果。AI を用いない従来の開発手法との比較。

※PMBOK®は Project Management Institute, Inc.の登録商標です。
※文中に記載されている会社名、製品名およびサービス名は、各社の商号、商標または登録商標です。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

株式会社 JDSC 広報担当　海藤（カイトウ） Email：info@jdsc.ai　電話：080-9087-0193